開催趣旨説明

井上 泰子（森林総合研究所国際連携・気候変動研究拠点主任研究員）

本日の国際セミナーの趣旨について説明させていただく。

（以下スライド併用）

まず、国際的な背景を簡単に振り返る。2005年にモントリオールで開催された COP11¹において、コスタリカとパプアニューギニアが、森林減少を食い止めることによる排出削減のメカニズムを構築し、これを気候変動緩和対策の次のメカニズムの一つとして位置付けることを提案したことにより、国際的な議論が始まった。

2007年にインドネシアのバリで開催された COP13²で、森林減少・劣化の抑制を対象とする REDD だけではなく、プラスの部分、すなわち既に保存されている森林を維持する活動や、森林の蓄積を増大する、つまり植林等の努力も含むものとして、「バリ行動計画³」の指針においてその仕組みを検討していくことが決定された。

2010年にカンクンで開催された COP16⁴では、REDD+の五つの対象活動や、七つのセーフガード、そして3段階のステップワイズアプローチなどについて決定された。

2013年に行われた COP19⁵では、ワルシャワ REDD+枠組み⁶と総称される七つの合意文書の決定が行われ、2015年に決定したパリ協定の5条に REDD+の実施と支援を行うことの重要性が位置付けられ、10年にわたる交渉が集結した。

1

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/montreal-climate-change-conference-december-2005/cop-11>

2

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/bali-climate-change-conference-december-2007/cop-13>

3 <https://unfccc.int/resource/docs/2007/cop13/eng/06a01.pdf>

4

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/cancun-climate-change-conference-november-2010/cop-16>

5

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/past-conferences/warsaw-climate-change-conference-november-2013/cop-19>

6 <https://unfccc.int/topics/land-use/resources/warsaw-framework-for-redd-plus>

Opening Session

このパリ協定では、全ての国が協調し、気温上昇を産業革命前の2°C以下のレベルに抑える、あるいはリスクに脆弱な国に配慮し、1.5°C以内に抑えることが目標として掲げられた。

これらの決定において、REDD+に取り組む各国は、まず国家戦略を策定すること、参照レベルを設定すること、セーフガード情報について報告すること、モニタリングシステムを設置し、その情報を報告すること、これらが成果に基づく支払いを受けるために必要とされている。

こうしたルールに基づき、気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）における交渉と並行して、実施国と支援国の双方がさまざまな課題に取り組んできた。森林のモニタリング技術や、それをいかに低コストで、効率的・効果的に行うかといった技術開発が飛躍的に発展し、また、REDD+のセーフガードに取り組むことで、生態系、生物多様性、住民の福祉などが豊かになる取り組みの重要性が確認されてきた。

また、REDD+の体制整備のための準備や成果支払いに関するさまざまな資金源が活用されるようになってきた。このパリ協定の実施指針に合意し、2020年から本格的な実施へのステップアップが期待される中、これらに対する情報を今、アップデートする必要が生じている。

キークエスチョン

REDDプラスはどこまで来たか？
今、どこにいて、何をすべきか？本格実施のステージへ向けたREDDプラスの課題と機会とは何か？

Key Questions

How far have we reached?
Challenges and opportunities of REDD-plus, where we are and what to do now?

REDD Research and Development Center Japan

国際セミナーの目的

- REDDプラスは技術面でどこまで来たか
- REDDプラスは施策面、資金面でどこまで来たか

現在および将来の機会を検討することを通じて、今後のREDDプラスへの民間参画の一層の促進に向けた課題について議論を行うこと

Objective

By discussion of

- Technical aspects: Review of monitoring methods and safeguard information systems
- Progress review of REDD+ from the viewpoint of political and financial aspects:

By reviewing the history of development and most recent trends in both of the technical and institutional aspects of REDD+, and explaining current and future opportunities.

REDD Research and Development Center Japan

そこで今回の国際セミナーにおいては、REDD+はどこまで来たか、今どこに行き何をするべきか、本格実施のステージに向けたREDD+の課題と機会とは何か、専門家の皆さまをお招きして振り返る、ということを実施する。

このセミナーの目的は、モニタリング手法やセーフガードの取り組みといった技術的な最新動向と、施策面・資金面でどこまで来たかについて情報共有していただき、現在および未来の機会を検討することを通じ、今後の REDD+への民間参画の一層の促進に向けた課題について議論を行うこととしている。

Keynote presentation 1
基調講演 1

なぜ森林なのか？なぜいつにもまして今なのか？

Why Forests? Why Now More Than Ever?

フランシス・セイモア世界資源研究所（World Resources Institute）
名誉上級研究員
Frances Seymour is a Distinguished Senior Fellow at World Resources Institute

基調講演 1

フランシス・セイモア世界資源研究所（World Resources Institute）名誉上級研究員。

国際森林研究センター（CIFOR）所長、世界開発センター上級研究員を経て、2017年より現職。森林やガバナンスに関する研究を行い、「グローバルフォレストウォッチ」や「グローバルリストラクションイニシアティブ」などの主要なサービスのアドバイザーを務める。近著に「なぜ今、森林保全なのか？ 熱帯林と気候変動の科学・経済学・政治学」（仮訳）

Keynote Presentation 1

Frances Seymour is a Distinguished Senior Fellow at World Resources Institute. She conducts research and writing on forest and governance issues and advises major initiatives – including Global Forest Watch, the Global Restoration Initiative, the Forest Legality Initiative and the New Climate Economy. Frances joined WRI from the Center for Global Development, where she was a Senior Fellow. She also served as Director General of the Center for International Forestry Research (CIFOR) from 2006 to 2012. She is the lead author of the book, “Why Forests? Why Now? The Science, Economics, and Politics of Tropical Forests and Climate Change”

今回、2人の素晴らしい専門家、実務者に基調講演をお願いしている。1人目は世界資源研究所の Frances Seymour 名誉上席研究員で、「なぜ森林なのか？ なぜいつにもまして今なのか？」を演題にお話しいただく。

Keynote presentation 2
基調講演 2

インドネシアにおけるREDDプラスの歴史と大きな機会

REDD+ Indonesia: From long history to a great opportunity

ルアンダ・アグン・スガルディマン（インドネシア環境林業省気候変動総局 総局長）
Dr. Ruandha Agung Sugardiman
(Director General of Climate Change, Ministry of Environment and Forestry, Republic of Indonesia)

基調講演 2

ルアンダ・アグン・スガルディマン インドネシア環境林業省気候変動総局 総局長

オランダのワゲニンゲン大学で「衛星レーダーによる森林火災及び森林面積モニタリング」をテーマに博士号を取得。専門は、GISやリモートセンシング技術を利用した森林インベントリ及び森林資源管理。2012年から2014年までUN-REDDプログラムのインドネシア副代表を務める。森林資源インベントリ及びモニタリング局局長を経て、2018年より現職。

Keynote Presentation 2

Ruandha Agung Sugardiman is Director General of Climate Change, Ministry of Environment and Forestry, Republic of Indonesia. His previous position was Director of Inventory and Monitoring of Forest Resources at the Directorate General of Planology. He served as Deputy National Project Director for UN-REDD Indonesia Joint Program in 2012 to 2014. He obtained his Doctorate degree on the subject of “Spaceborn Radar Monitoring of Forest Fires and Forest Cover Change” from Wageningen University in the Netherlands in 2007.

2人目は、REDD+実施国のトップランナーの国の一つであるインドネシアから、環境森林省気候変動総局長の Ruandha Agung Sugardiman 様に「インドネシアにおける REDD プラスの歴史と大きな機会」についてお話しいただく。

⁷ <http://www.menlhk.go.id/>

Opening Session

Session 1:
REDDプラスはモニタリングやセーフガードに関する技術についてどこまで来たか
Review of monitoring methods and safeguard systems for REDD-plus
Moderator: Dr. Tamotsu Sato 佐藤保 (FFPRI)

- UNFCCCへ提出済みの森林参照レベルとREDD+の成果
Forest Reference Levels and REDD+ results submitted to the UNFCCC
Dr. Marieke Sandker (The Food and Agriculture Organization (FAO))
- モザンビークにおける森林モニタリング手法の発展と森林劣化の問題への取り組み
Development of forest monitoring systems methods and forest degradation issues in Mozambique
Mr. Joaquim Armando Macuacua (Forestry Ministry of Land Environment and Rural Development, Mozambique)
- REDDプラスの実現に向けて「セーフガードの意義」
Delivering REDD+: the role of safeguards
Dr. Annalisa Savaresi (University of Stirling, U.K.)

Session 2:
REDDプラスは施策面・資金面でどこまで来たか
Progress review of REDD-plus from the viewpoint of policy and finance
Moderator: Dr. Kanako Morita 森田香菜子 (FFPRI)

- REDDプラスの効果的な戦略として生産林を活かす—世界の木材需要に応える方法とは—
Harnessing the role of productive forests as an effective strategy for REDD+
Dr. Gerhard Dieterle (International Tropical Timber Organization (ITTO))
- TCFD、物理的リスク、そして自然資本
TCFD, physical risks and natural capital
池田賢志氏 Mr. Satoshi Ikeda (金融庁)
- 革新的ファイナンス：民間資金をREDD+に導入する手法
Financial Innovation: How to mobilize private sector funds to REDD+
奥村 澄氏 Mr. Kiyoshi Okumura (International Finance Corporation (IFC))

続いて昼食を挟み、午後は二つのセッションとパネルディスカッションを予定している。セッション 1 では森林総研の佐藤がモデレーターとなり、「REDD プラスはモニタリングやセーフガードに関する技術についてどこまで来たか」をテーマに、3人の専門家にお話しいただく。1人目は国連食糧農業機関⁸ (FAO) の Marieke Sandker さんで、「UNFCCC へ提出済みの森林参照レベルと REDD+の成果」についてお話しいただく。2人目はモザンビーク森林局から Joaquim Macuacua 様に、「モザンビークにおける森林モニタリング手法の発展と森林劣化の問題への取り組み」についてご講演いただく。最後にイギリスのスターリング大学⁹ Annalisa Savaresi 様から、「REDD プラスの実施に向けて—セーフガードの意義—」についてお話しいただく。

セッション 2 では森林総研の森田がモデレーターを務め、「REDD プラスは施策面・資金面でどこまで来たか」に関し、3人の専門家に情報提供していただく。1人目は国際熱帯木材機関 (ITTO) の Gerhard Dieterle 事務局長から「REDD プラスの効果的な戦略として生産林を活かす—世界の木材需要に応える方法とは—」について、続いて金融庁¹⁰の池田賢志様より「TCFD、物理的リスク、そして自然資本」、最後に世界銀行グループの国際金融公社¹¹ (IFC) の奥村様から「革新的ファイナンス：民間資金を REDD+に導入する方法」についてお話しいただく。

⁸ <http://www.fao.org/home/en/>

⁹ <https://www.stir.ac.uk/>

¹⁰ <https://www.fsa.go.jp/>

¹¹

https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/Multilingual_Ext_Content/IFC_External_Corporate_Site/IFC_Home_Japan/

Panel Discussion:
本格実施のステージに向けたREDDプラスの課題と機会
Challenges and opportunities of REDD-plus, where we are and what to do now?
 Moderator: Dr. Makoto Ehara 江原 誠 (FFPRI)

パネリスト Panelists :

- Ms. Frances Seymour (WRI)
- Dr. Ruandha Agung Sugardiman (Ministry of Environment and Forestry, Indonesia)
- Dr. Marieke Sandker (FAO)
- Mr. Joaquim Armando Macuacua (Forestry Ministry of Land Environment and Rural Development, Mozambique)
- Dr. Annalisa Savaresi (University of Stirling, U.K.)
- Dr. Gerhard Dieterle (ITTO)
- 池田 賢志氏 (金融庁)
- 奥村 澄氏 (IFC)

ご参加、ご支援・ご協力ありがとうございます。
 Thank you very much!

主催：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
 共催：国際熱帯木材機構 (ITTO)、国際協力機構 (JICA)、森から世界を変える REDD+ プラットフォーム
 後援：林野庁、外務省、経済産業省、環境省、日本リートンシップ学会、日本森林学会、日本熱帯生態学会、森林計画学会

When do we do it?
 It's NOW! – by Mr. Osamu Hayashi

そして、森林総研の江原が司会を務め、「本格実施のステージへ向けた REDD プラスの課題と機会」と題したパネルディスカッションを行う。最後に、森林総研 REDD 研究開発センターの平田ダイレクターが本日の総括を行う。

本日の終了時まで、REDD+の今の課題と機会についてアップデートしていただき、今、何に取り組むべきか、ご参加の皆さまが考えていただき、一緒に行動に移すきっかけとなれば幸いです。